

分野： (3) 気管支ぜん息・COPDの動向等に関する調査研究

① 気管支ぜん息の動向等

(3)-①-ii)

申請課題名： ii) 表現型別のぜん息増悪因子の同定と長期予後の解析
- 非2型炎症を有するぜん息病態の検討を含めて -

調査研究代表者氏名：長瀬 洋之

| 1 評価項目 | | | | | | |
|--|----|----|----|----|----|------|
| 5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定) | | | | | | |
| | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均点 |
| (2) 研究成果目標の達成度 | 3人 | 3人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.50 |
| (3) 研究計画の妥当性 | 3人 | 3人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.50 |
| 個別評価(第3評価):(2)(3)の平均 | | | | | | 4.50 |
| (6) 総合評価(第2評価) | 4人 | 2人 | 0人 | 0人 | 0人 | 4.67 |
| 全体評価(第1評価):(2)(3)(6)の平均 | | | | | | 4.56 |

2 記述評価

- ・申し分ない進捗状況であり、途中の結論もかなりクリアカットに出されている。
- ・FeNO単独高値とリモデリングの関連性を結論づけるための検討を既存のデータからでも進めて欲しい。リモデリングはHR-CT、FV曲線のFEF50%とFEF75%などが、Fresによる末梢気道の評価にはFV曲線のFEF50%とFEF75%との関連性などの解析が有用だと考えられる。
- ・調査研究の更なる進展を期待。
- ・研究が順調に進められている。
- ・バイオマーカー(2型, 非2型の)、例えば、TGF β 、FeNOなどについて、個別患者への治療や長期予後への応用の方法の検討が望まれる。
- ・ぜん息増悪因子探索研究の可能性を示唆している。抗体医薬の費用対効果についても解析を期待する。
- ・研究が適切に進捗していると評価する。
ぜん息増悪の定義が経口ステロイド内服等の一定の治療を要した症状の悪化となっている。一方で、検討されている増悪寄与因子にも治療に関わる項目があり、両者が関連している可能性がないかを調べておく必要があると考えられる。